長洲町立長洲小学校　校長便り　No.６４

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１月２０日(金)

雑感

よく父から言われた言葉。「寒かなら体を動かせば良い」

そんなことを言われてもねぇなんて思っていたが、最近はそうでもない。休日の午前中から遅い午後にかけては、家でじっとしているより体を動かしていた方が、体調が良いように感じている。ヒーターを効かせた狭い部屋では何となく気持ちの健康が保てないような気がするのは私だけではないと思う。体を動かすことによって体の中から熱をつくる、体を温めるということは健康維持のために重要なことだ。実に経済的で理に適った方法だ。

便利な世の中になって、多くの不便さはお金をかけることによって解決はできる。しかし、それで良いのかとも思う。

卒業前雑感～中学校とは②～「苦手意識」

教師の私が言うといけないのかもしれませんが、私が中学時代苦手だった教科は、実は国語です。読解力はそこそこにあったと思うのですが、どうしても点数は低かったです。後に国語に関しては努力するきっかけとなった訳ですが、他教科はといえば、数学はコンスタントに?.低い点数でした。苦手意識が国語と数学にあった訳です。国語と数学の苦手克服は、今思っても大変です。一夜漬けで点数の取れるような教科ではありませんから、毎日の継続が絶対に必要です。

全国的には苦手意識が高い教科は何だと思いますか。それは英語です。苦手教科に挙げられた理由は色々考えられますが、その一つとして英語を使うシチュエーションが少ないことが挙げられます。しかし逆にいえば、この時期、英語を得意教科にしてしまえば、後は順調に進むことは珍しくありません。英語は中1の前半での授業理解と学習法のマスターが大切な教科といえるのではないでしょうか。

私は最近、英語の必要性について身につまされています。海外の仲間とのメールのやり取りに必要だからです。頑張っておけばよかった…。

卒業前雑感～中学校とは③～「親」

思春期の初期にある6年生ですが、これからの数年間で見違えるような精神的な成長を遂げるのも、この時期の特徴です。親子関係も劇的な変化があります。私はだんだん父のことが煙たくなり、母には話をしたいのですが何となく照れくさくて、特に友達の前では「あっち行けよ…。」と邪けんな態度をとっていました。この時期当たり前といえば当たり前なのですが、このようにして、世の親や子は親離れ子離れを成し遂げていくのです。

親は、子供の近くにいてすぐに手を差し伸べるという存在から、少し離れて子供の成長を見守る存在になります。この際、子供を信じるということがキーワードですが、最近は信じてばかりでは思わぬ落とし穴にはまることもしばしばですから、「うちの子に限って」ではなく、「もしかしたら…?」という視点で子供達を見ることも必要になってくるかもしれません。しかし、つい気になって子供の生活の一部始終を知りたくなる気持ちも分かりますが、いつまでも親が入りすぎると、成長を妨げることになります。個人差はありますが、助言を求められたら積極的に相談にのり、それ以外のときは「最近どぉ?」と尋ねるくらいにしておいた方がいいかもしれません。子供は子供なりに葛藤していますから。

シリーズ「自分を語る」#６４

「赤団と黄団のデッドヒートです、どちらもがんばれ!!」放送係の実況にも熱が入ります。私達は赤団です。殆ど同時に決勝テープを切ったようでした。決勝係の先生方が協議しています。結果は…?　ここまでしたね。

私は時間が止まったような錯覚に陥っていました。放送係から結果のアナウンスがあるまでがとても長く感じましたね。子供達も同じ感想を持っていたようでした。「6年生によります学級対抗リレーは1位黄団、2位赤団…。」

その後は、私も子供達も何も聞こえませんでした。子供達は運動場から私の方を見ていましたし、私も子供達の方を見ていました。こうして書くとドラマの様なシーンにも感じますが、そんなものではありません。お互い、かける言葉が見つからないのです。私は黙って拍手するだけでした。閉会式と後片付けが終わり、教室に戻るまで誰もリレーの話題には触れませんでした。仕方がないので、結局私から言葉を発するのですが、私が「よく頑張ったな。」と声を掛けると、数名の子が泣き出してしまいました。ほんとにかける言葉が無いので、どうでもいい言葉が浮かんでは消え浮かんでは消え、最後に出てきた言葉は「これも思い出だい！　また、頑張ろう!」現実を受け入れないといけませんし、いつまでも泣いている訳にもいかず、子供達も無理やり自分の心の中に悔しい思いを押し込んでしまったようです。当時の子供達は現在３４歳?.35歳?.でしたでしょうか、同窓会の度にリレーの話題が出て、大変盛り上がります。「お前がバトンば落とすけん負けたろが。」等と、今では笑い話となっています。この年の6年生とは、本当に多くの行事を行いました。そういう意味で非常に充実した毎日を送りました。

玉名町小学校で5年目を迎えていた私にとっては、追い風の時期だったように思います。必ずと言ってよいほど保護者の方が協力をしてくださるようになり、子供達も各種の行事を楽しみにしていました。当時の私は、1年を4つのスパンで区切り、スパンごとに目標を設定し、目標達成のために何をなすべきかということと、子供達の行動や力のベクトルを同じ方向に向けることに、かなりのエネルギーを注いでいました。その結果、子供達は集団で同じ方向へ向かう時の心地良さを感じ、その心地良さの中で派生するプラスの効果が、更なる学級集団の伸びに影響を与えていました。そういう意味で私が担任として行った仕事は、4月に行った「所信表明」だけだったような気がします。5年生から持ち上がりの学年だったので、そういう意味での良い学級経営ができていたのかもしれません。

そんなこんなで、楽しい時間を過ごしていた私澤田です。平成１２年度末、また校長室に呼ばれました。

「澤田先生、来年度は5年生をお願いします。」

「はい、精いっぱい頑張ります。」

平成１３年度も、周囲の予想通り高学年を担任させて頂くこととなり、その年も「ナイトハイク」「キャンプ」「登山」「スケート」その他、子供達が喜びそうな行事を考え、そして仕組んでいくことに全力を注いでいきました。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）